

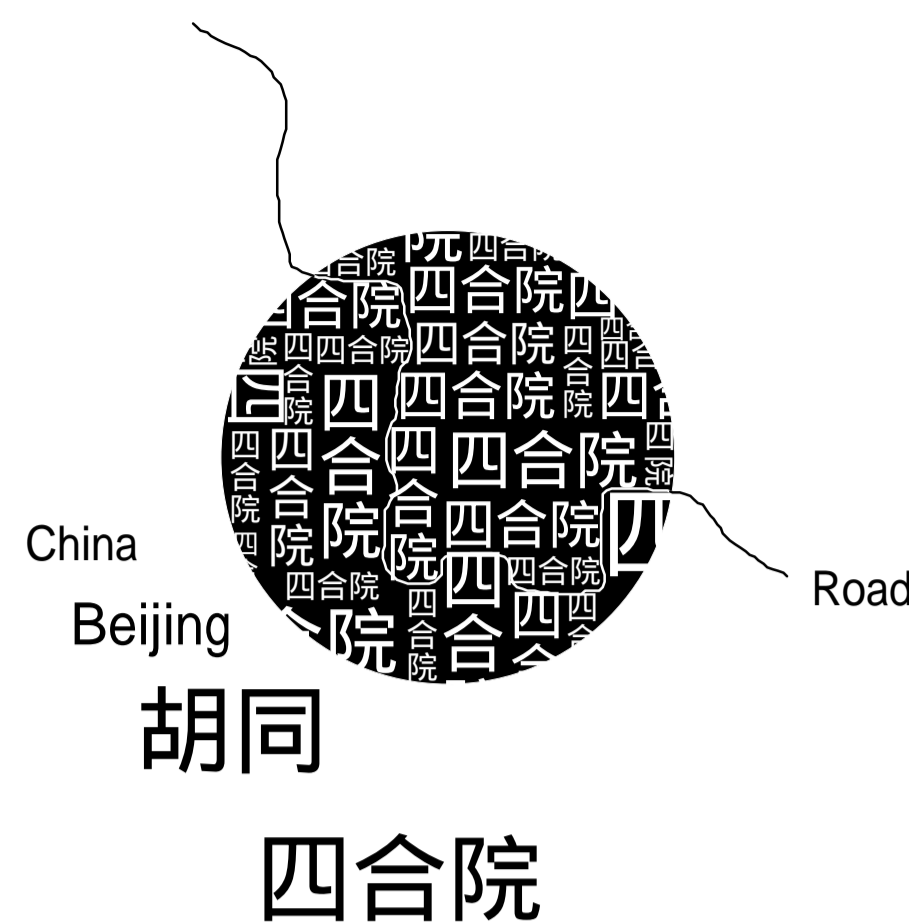
四合院

0 1 シンプルなプランにより容易に大規模化でき、一住居形式『四合院』が単純にも連なることで街並み形成へと繋がる流れ。

『四合院』：この住居形式をもって、
 一「住居」は連なり、
 一「街並み」=『胡同（フートン）』となり、
 一「都市」=『北京』を形成する。

0 2 中庭は屋外の一室として、そこで展開される生活行為は無限である点。

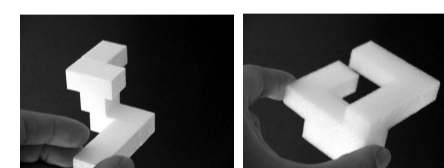
0 3 外に対して閉鎖的とされる中庭型住居でありながら、『四合院』の連なりで形成される街路こそ『胡同（フートン）』の味わいとされ、『四合院』が外の“みち”づくりに一役かっている点。



現代四合院

0 1 『現代四合院』：この住居形式をもってすれば、
 一「住居」は連なり、
 一「集住体」となり、
 一「街並み」を生み、
 一「都市」=『東京』を形成できる。

0 2 多住居で一つの中庭を囲い、各住居2層以上の展開とし、中庭を介した立体動線を生む。内なる廊を持つ“玄関”を持たないプランにより明確な動線を確保し、ランダムな中にも、各住居が中庭を介して生活することを可能にする。中庭より、各住居の内なる廊を通り、各個室へ直接アクセスできるプランでもあり、これからのSOHO等の個人を重視した住居への可能性を秘める。



0 3 敷地の特性を生かした上で、『現代四合院』の連なりより生まれるRoadと呼ぶ街路とPathと呼ぶ小道の二つの異なった性格を持つ“みち”により、目白通りと都電の鬼子母神駅とを繋ぐ。



『現代四合院』 = 東京の地に生む “現代版” 『四合院』の集住体

マルコ・ポーロも訪れたという味ある『胡同』の街並み、その街並みを今も変わらずつくり出す『四合院』。この住居形式から引き出されるものは無限である。この二千年の歴史を持つとされる中国北京伝統『四合院』の住居形式より、これからの住居を考えたい。